

町をアピールする戦略と組織を作る考えは

町長…「大石田町観光物産協会」が有効と考える。



遠藤 宏司 議員



虹ヶ丘からの眺望

町長 流入移動人口の増加は地域経済の活性化に極めて有効であると認識しています。温泉や食・景観・歴史文化などを資源としている当町の場合、リピーター確保型観光を指向していますので、宣伝の方法や誘客の戦術は広域組織の中で一体的に

農業・商工業・観光業と歴史・文化の連携
交流人口の拡大が町の活性化につながると思う。町の農業・商業・工業の食材や産物と歴史や文化を再認識し、各種イベントと関連付け、町の賑わいをつくる戦略を模索すべきではないか。見慣れた川や空や虹も、芭蕉や茂吉、小松均の手にかければ数百年も残る俳句や短歌や絵画になります。豪雪の風景と流雪溝の整備で雪のない本町地区の風景など、ありのままの空間や景観を誘客の資源として再認識し、町を総合的にアピールする戦略を考え、それを実行し推進する組織をつくる考えはないか。



若者でにぎわう維新祭

共同展開しています。現在の観光客を減らさず確保することが課題です。観光客のニーズに直結する議論と工夫を深めて、「手打ちそば」という具体的な素材を当町の食の観光の柱として推進していただきたい。

活動に直結してゆく組織をつくらなければならぬと考えます。「大石田町観光物産協会」というようなものが有効であると提言してきましたが、組織化に向け強力に働きかけてゆきます。



町企業育成で移転したトヨタライン



齋藤 公一 議員

企業誘致活動を積極的にすべきでは。町長 策定済みの農工団地計画の見直しは必要です。その中で当面は企業等の動向を的確に把握しながら、できる範囲で支援策を検討していきます。再質問 町では商工業、農家の売上げが大幅にダウンしている。このような状況のなか企業誘致促進委員会を立ち上げ誘致に努力すべきではないか。町長 平成12年に工場設置等奨励委員会条例がすでにあります。今後活動できるように検討します。

観光事業促進と交流人口増対策は。観光資源と地場産品を一体化した共通券を発行するなど、町の収入増につなげられないか。町長 平成3年大石田温泉が湧出してから年間50万人の観光人口があります。そば街道には20万人の来町があります。観光事業と経済活動という視点で大きな成功例といえます。今後は、農業、商工業とそれを支える機関、団体が一体となって町観光物産協会を立ち上げて活動していただきたい。

農業商工業の振興策は。両業種の連携協調により協働の町づくりをはかり閉塞感を打破すべきだ。町長 国交省主導で町活性化検討協議会を立ち上げ、今活動しています。

大川健嗣元山大教授の指導で各界各層から若い人18人参加していただいています。今後の町づくりのリーダー養成ですが、そのような人材が出てくることを期待しています。



町誘致企業のアヲハタ

町長…できる範囲で支援策を検討します。企業誘致活動を積極的に推進せよ